

14章13-15節 「こういうわけで、もはや、私たちは互いにさばき合わないようにしましょう。いやそれ以上に決心しなさい(さばくことにしなさい)、兄弟に対して妨げになるもの、つまずきになるものを置くことはしないということを。 私は主イエスのうちにあって、知っており、また確信させられています、それ自体で汚れているものは何一つないということを。ただ、もし何かが汚れていると見做す人がいるとするなら、それは汚れたものなのです。 というのは、もし食べ物のゆえにあなたの兄弟が嘆いている(心を痛めている)のなら、もはやあなたは愛によって歩んではいないからです。あなたの食べ物のことで、キリストが代わりに死んでくださったというほどの人を、滅ぼしてはなりません」

14章16-19節 「ですから、そしられないようにしなさい、あなたが善いとすることに関して。 なぜなら、神の国は、食べることや飲むことではなく、聖霊における義と平和と喜びだからです。 それは、このことにおいてキリストに仕えている者は、神に喜ばれ、また人々にも認められるからです。 ですから、私たちは平和のことを追い求めようではありませんか、またお互いへの建て上げを」

14 章 20,21 節 「食べ物のことで神のみわざを壊しては(台無しにしては)なりません。すべての物はきよいのです。しかし、つまずきをとおして(つまずかせる仕方)で食べる人にとっては、悪いものなのです。 肉を食べず、ぶどう酒を飲まず、あなたの兄弟がつまずくようなことをしないのは良いことです」

14 章 22, 23 節 「あなたが持っている信仰は、神の御前で自分の信仰として持っていないさい。幸いなのは、自分が(良いと)認めていることで、自分自身をさばかない人です。 しかし、もし疑いながら食べる人は咎められています。それは、信仰から出ていないからです。すべて信仰から出ていないことは、罪です」

<関連引用聖句>

(使徒 18:2) パウロがコリントでアキラとプリスキラに出会ったときのことが「クラウディウス帝が、すべてのユダヤ人をローマから退却させるように命じたので、最近イタリアから来ていたのである」と描かれていた(紀元 49 年頃) 皇帝ネロの即位の紀元 54 年にユダヤ人のローマ帰還?パウロのローマ書に執筆は紀元 57 年頃にコリントで

(マルコ 7:18,19) イエスは「外から人に入ってくるどんなものも、人を汚すことはできません。それは人の心に入らず、腹に入り排泄されます」と言って、「すべての食物をきよいとされた」

(使徒 10:15)「神がきよめた物を、あなたがきよくないと言ってはならない」

(外典マカバイ記第二 7 章) ギリシア人の王が七人の兄弟と母親を捕らえ、豚肉を食べな

いなら、舌を切り、頭皮を剥いで手足を切ると脅した。すると彼らは自分の舌と両手を差し出し、「私はこれらを天から受けたが、主の律法のためなら惜しくない。主からこれらを再び受けることを希望している」(10 節)という復活信仰によって、殉教の死を遂げた。七番目の息子が残った時、王は母親に説得を勧めた。しかし母は彼に「息子よ、お前を九カ月の間胎内に宿し、三年の間乳を飲ませ、お前を養い、この年になるまで育ててきたこの私を憐れんでおくれ…この死刑執行人を恐れず、兄たちに倣って、死を受け入れなさい」(27,29 節)と勧めた(紀元前 220 年頃)

(ローマ 14:4) 「あなたはいったい何者なのですか、他の家のしもべをさばくとは。自分の主人次第で彼は立ち、また倒れます。しかし、彼は立つことになります。なぜなら、主はその人を立たせることができるからです」

(申命記 6:5)「心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くして、あなたの神、主(ヤハウェ)を愛しなさい」

(ローマ 5:1,2) 「こうして、私たちは信仰(真実)によって義と認められたので、神との平和を持っています、私たちの主イエス・キリストを通してのことです。この方を通して私たちは信仰(真実)をもとに、ここで立っているこの恵みに導き入れられました。そして、神の栄光にあずかる望みを誇りとして(喜んで)います」

(使徒 10 章) ペテロがローマの百人隊長のコルネリウスの家に招かれる際の葛藤とその解決が、「ご存じのとおり、ユダヤ人には、外国人と交わったり、外国人を訪問したりすることは許されていません。ところが神は私に、どんな人のことも、きよくない者であるとか汚れた者であるとか言うてはならないことを、示してくださいました」(28 節)と記される。

コルネリウスへの主の導きを聞いてペテロは、「これで私は、はっきり分かりました。神はえこひいきをする方ではなく、どここの国の人であっても、神を恐れ、正義を行う人は、神に受け入れられます。神は、イスラエルの子らにみことばを送り、イエス・キリストによって平和を(福音として)宣べ伝えられました。この方こそすべての人の主です」(34-36 節一部私訳)と答えた。

(Ⅱコリント 5:17 別訳) 「キリストのうちにある…新しい創造」

(ヘブル 9:12) イエスはご自身の十字架で「永遠の贖いを成し遂げられた」

(マルコ 7:15) イエスは言われた。「外から入って、人を汚すことができるものは何もありません。人の中から出て来るものが、人を汚すのです」

(ローマ 4:20,21) 「神の約束に向かって、彼(アブラハム)は不信仰に揺れ動くことはありませんでした。かえって信仰が強められました。それは、神に栄光を帰しながら、また、神には約束したことを実行する力があるという確信させられながら」

(Ⅰコリント 10:31) 「こういうわけで、あなたがたは、食べるにも飲むにも、何をするにも、すべて神の栄光を現すためにしなさい」